

《担当者名》教授 / 泉 剛

講師 / 水野 夏実 講師 / 鹿内 浩樹

【概要】

疾患の発見、病態把握の基礎となる自覚症状や他覚症状の観察とその情報収集につとめる習慣はすべての医療分野において極めて重要である。本講では疾患に伴って現れる主要な症候について学修し、症状および徴候が出現する機序について学び、その背景となる疾患を理解する基礎知識を身につける。また、薬物治療を実践するに当たって、様々な疾患の病態やその背景並びに臨床経過を理解することは極めて重要である。本講では、いくつかの代表的な疾患についてその病態・病因、並びに関連する病態生理学的な背景などについて学び、各論となる今後の薬物療法学で学修するための基礎となる知識を修得する。さらに、本講では重要な臨床検査の概要についても解説する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	症候学総論 臨床検査医学総論 血液系の疾患	<p>症候学の必要性や重要性について概説できる。 臨床検査の基本的な考え方を説明できる。</p> <p>血液系疾患を概説できる。 貧血、出血傾向について説明できる。 赤血球系疾患および白血球系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 血液凝固・線溶系異常の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(3)- -3~5</p>	泉 剛
2	脳・神経・筋の疾患	<p>中枢神経疾患を概説できる。 脳および神経障害（視力障害、聴力障害、記憶障害、知覚障害（しびれを含む）、神経痛など）について説明できる。 神経および筋障害（めまい、頭痛、けいれん、運動麻痺、不随意運動、筋力低下、嚥下困難・意識障害・失神など）について説明できる。 関節痛、関節腫脹、腰背部痛について説明できる。 脳・神経・筋疾患の診断に関する臨床検査項目について説明できる。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(1)- -4、E2-(1)- -4~11,14</p>	泉 剛
3	消化器系の疾患	<p>消化器系疾患を概説できる。 腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血について説明できる。 黄疸・肝腫、腹部膨満（腹水）について説明できる。 肝・胆・膵疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 消化器系疾患の診断並びに機能検査に必要な臨床検査項目について説明できる。</p> <p>《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(4)- -1~9</p>	泉 剛
4	免疫系の疾患・炎症・アレルギー・感染症・膠原病	<p>免疫系疾患および膠原病を概説できる。 炎症およびアレルギーを概説できる。 感染症を概説できる。</p>	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		発熱、発疹について説明できる。 リンパ節腫脹について説明できる。 アレルギー疾患の診断に関する臨床検査項目について説明できる。 自己免疫疾患の診断に関する臨床検査項目について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(2)- -3~9、E2-(7)- -1~10 E2-(7)- -1~6、E2-(7)- -1,2 E2-(7)- -1,2	
5	内分泌系の疾患・代謝異常	内分泌疾患を概説できる。 代謝疾患を概説できる。 月経異常や不妊について説明できる。 肥満、やせ、全身倦怠感について説明できる。 内分泌・代謝異常の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(5)- -1~3、E2-(5)- -2~5 E2-(3)- -6~8	鹿内 浩樹
6	呼吸器系の疾患	呼吸器系疾患を概説できる。 呼吸困難、咳、痰、血痰、喀血、チアノーゼなどについて説明できる。 呼吸器系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(4)- -1~9	鹿内 浩樹
7	循環器系の疾患	循環器系疾患を概説できる。 高血圧、低血圧、ショックなどについて説明できる。 心悸亢進、動悸、胸痛などについて説明できる。 循環器系疾患の診断に必要な臨床検査項目について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(3)- -1~5	鹿内 浩樹
8	腎および泌尿器系の疾患	腎および泌尿器系疾患を概説できる。 浮腫、脱水について説明できる。 血尿、蛋白尿、排尿などの尿路系および尿所見の異常について説明できる。 体液異常について説明できる。 尿検査、腎機能検査並びに体液に関する臨床検査項目について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E1-(2)- -1、E1-(2)- -1~8 E2-(3)- -2~5	水野 夏実

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による。

【評価方法】

期末定期試験（100%）により評価する。

【教科書】

「症候学」 早川伸樹、脇田康志 京都廣川書店

【参考書】

「知っておきたい臨床検査値」 第2版 日本薬学会編（東京化学同人）

「コンパス 薬物治療学」 原 明義、小山 進（南江堂）

「病気がみえる vol.1 消化器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.2 循環器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.4 呼吸器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.5 血液」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.7 脳・神経」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.8 腎・泌尿器」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科」MEDIC MEDIA

「病気がみえる vol.10 産科」MEDIC MEDIA

【学修の準備】

本講義は、後期並びに上級学年で開講される「薬物療法学 ~」を理解する上で必要な内容を多く含んでおり、学習範囲が多岐に及ぶため、疑問点を含めて講義内容のしっかりした理解に努めること。

・予習として、シラバスに記載されている次回の講義範囲について教科書やこれまでに使用した資料を読み、疑問点などをまとめておくこと（40分）。

・授業の内容の小テストを実施することがあるので、復習をしておくこと（50分）。

・授業終了時に練習問題等を課した場合は、次回の授業までに解答しておくこと（50分）。

・復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに（50分）、日常においても専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと（20分）。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E1 薬の作用と体の変化

(2) 身体の病的変化を知る

【 症候】-1

【 病態・臨床検査】-1~8

E2 薬理・病態・薬物治療

(1) 神経系の疾患と薬

【 体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療】-4

【 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】-4~11, 14

(2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬

【 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】-1, 3~9

(3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬

【 循環器系疾患の薬、病態、治療】-1~5

【 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】-3~5

【 泌尿器系・生殖器系疾患の薬、病態、治療】-2~8

(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬

【 消化器系疾患の薬、病態、治療】-1~9

(5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬

【 代謝系疾患の薬、病態、治療】-1~3

【 内分泌系疾患の薬、病態、治療】-2~5

(7) 病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬

【 細菌感染症の薬、病態、治療】-1~10

【 ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療】-1~6

【 真菌感染症の薬、病態、治療】-1, 2

【 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】-1, 2

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

3. 多職種が連携する医療チームに積極的参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

泉 剛(医師)、水野 夏実(薬剤師)、鹿内 浩樹(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、薬剤師としての経験をもとに、医療場面で遭遇する可能性の高い臨床診断に関する知識を講義する。